

## 1 研究課題名

飲酒運転者の医学・心理学的判定法に関する研究

## 2 研究担当者

主担当者氏名 岡村和子 交通科学部交通科学第二研究室  
他3名

## 3 研究期間

平成23年4月 ～ 平成26年3月（3年計画）

## 4 研究予算

平成23年度 10, 114千円

平成24年度 8, 036千円

平成25年度 4, 800千円

## 5 研究の目的

飲酒運転で検挙された者のうち、アルコール依存症ではない者も含めて医学・心理学的に個別の問題を判定する方法、及び処遇方法を検討することにより、再犯抑止に資する知見を提供する。

## 6 成果

### (1) 当初予定していた成果

アルコール依存症スクリーニングテストと肝機能損傷の指標から、調査参加者の3～4割に、アルコール依存症の可能性があると考えられた。断酒を続けていた者は1割に満たず、約半数の者が健康上有害とされる飲酒行動をとっていた。一方、約半数の者には、飲酒行動に顕著な問題は認められなかった。また、飲酒行動やアルコール使用障害の有無と、飲酒運転への考え方（飲酒運転を正当化する傾向、飲酒運転回避の自信の程度）は、互いに質の異なる問題であり、飲酒行動だけでなく、飲酒運転への考え方にも個人差が大きいことがわかった。

飲酒運転に関連が深いとされる性格特性、精神健康、アルコール使用障害の指標に加えて、違反履歴、飲酒運転への考え方等のデータを使い、飲酒運転者を5種類に分類した。それぞれの特徴は、以下のとおりである。

Aタイプ(7%)：飲酒運転の前歴がある。有害な飲酒行動をとり、アルコール依存症が疑われる。衝動性が高く精神的に不安定で、飲酒運転をやめられるという自信の度合いが低い。

Bタイプ(21%)：有害な飲酒行動をとる若年者。飲酒運転を正当化し、飲酒運転をやめようという意識が低い。

Cタイプ(19%)：飲酒運転の前歴があり、年齢が高い。飲酒量が多く、有害な飲酒

行動に当てはまる者も多い。飲酒運転を二度と繰り返さないという意識は強い。

Dタイプ(45%)：初犯の若年者。有害な飲酒行動をとっている者が多いが、アルコール依存症が疑われる者は少ない。飲酒運転を繰り返さないという意識は強いが、やや飲酒運転を正当化する傾向がみられる。

Eタイプ(8%)：調査時点で意図的に断酒をしている者、あるいは飲酒行動を変えようとしている。飲酒運転を二度と繰り返さないという意識が強い。

本研究が提案する判定法は、アルコール使用障害の端緒となる飲酒行動に加えて、飲酒運転への考え方を調べることにより、個別の問題をより正確に把握し、問題の性質と深刻さに応じた処遇を行うことに資するものである。

(2) 当初予定していなかったが副次的に（あるいは発展的に）得られた成果

飲酒運転と関連の深い、違法薬物及び医薬品の使用が自動車運転に及ぼす影響についても多くの示唆を得た。このことを契機に、医薬品服用中及び違法薬物乱用中の交通事故に関する研究を別途実施した。また、アルコール代謝の遺伝型は、飲酒運転者の個別の問題を判定する際に有効な資料となり得る可能性が示唆された。

(3) 当初想定していたが得られなかった成果

特になし。

## 7 成果の発表

(1) 論文・総説・著書 (Publication to academic journals)

1) オーストラリアにおける飲酒運転者対象の講習プログラム

藤田悟郎

月刊交通, 45(11), 92-98 (2014).

2) Typology of driving-under-the-influence (DUI) offenders revisited: Inclusion of DUI-specific attitudes

Okamura, K., Kosuge, R., Kihira, M., Fujita, G.

*Addictive Behaviors*, **39**, 1779-1783 (2014).

3) Factors contributing to driver choice after hitting a pedestrian in Japan

Fujita, G., Okamura, K., Kihira, M., Kosuge, R.

*Accident Analysis and Prevention*, **72**, 277-286 (2014).

4) メタ・アナリシスに見る飲酒運転対策の評価

岡村和子

日本アルコール・薬物医学会雑誌, 48(5), 243-260 (2013).

5) 英国における飲酒運転対策—再犯抑止のための講習について—

小菅律, 岡村和子, 藤田悟郎

交通心理学研究, 29(1), 32-41 (2013).

6) 飲酒運転で行政処分を受けた男性への面接結果から

岡村和子

月刊交通, 44(4), 88-97 (2013).

- 7) 違法薬物・医薬品と自動車運転  
岡村和子  
月刊交通, 43(5), 88-98 (2012).
  - 8) カナダ・ブリティッシュコロンビア州における飲酒運転対策  
藤田悟郎  
月刊交通, 43(2), 91-98 (2011).
  - 9) 飲酒運転対策についての海外の動向  
岡村和子  
月刊交通, 42(3), 15-27 (2011).
  - 10) 飲酒運転  
岡村和子  
法と心理学の事典, 212-215 (2011).
  - 11) ひき逃げ事件  
藤田悟郎  
法と心理学の事典, 210-211 (2011).
- 
- (2) 学会における口頭発表 (Oral presentation at the academic meeting and conference)
    - 1) Preliminary results of pattern of alcohol metabolism among driving under the influence of alcohol offenders: Association between alcohol metabolism, alcohol use behaviours and other psychosocial variables  
Okamura, K., Kinoshita, K., Hayashida, M., Kihira, M., Kosuge, R., Fujita, G.  
*Alcohol and Alcoholism*, **49**, S(1), i57 (2014)
    - 2) Do offenders of alcohol-impaired driving attribute their problem to alcohol use?  
Okamura, K. Kihira, M. Kosuge, R. Fujita, G.  
Scientific Programme 21st World Congress Social Psychiatry, pp.105 (2013)
    - 3) 飲酒運転で行政処分を受けた男性の飲酒行動と飲酒運転行動  
岡村和子, 小菅律, 藤田悟郎  
日本交通心理学会第 78 回大会発表論文集, 19-20 (2013).
    - 4) Will they really never ever drink and drive in the future again? A preliminary result from interviews with disqualified drink drivers in Japan  
Okamura, K., Kosuge, R., Kihira, M., Fujita, G.  
The 5th International Conference on Traffic and Transport Psychology,  
Abstract book, 44 (2012).
    - 5) 飲酒運転の現状と課題  
岡村和子  
平成 24 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, プログラム・講演抄録集,  
116 (2012).

- 6) 飲酒運転者は行動変容の必要性をどう捉えているか  
岡村和子, 木平真, 小菅律, 藤田悟郎  
平成 24 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, プログラム・講演抄録集,  
179 (2012).
  - 7) 飲酒運転の累犯と関連する要因  
岡村和子, 小菅律, 藤田悟郎  
日本心理学会第 76 回大会発表論文集 CD. (2012).
  - 8) Factors of hit-and-run accidents after drinking in Japan  
Fujita, G.  
The 63rd Annual Meeting, American Society of Criminology, 356 (2011).
  - 9) Factors of hit-and-run accidents in Japan during the first half of 2000s/  
2000 年代前半の日本におけるひき逃げ事件の発生要因  
Fujita, G. / 藤田悟郎  
The book of abstracts: 16th World Congress of the International Society of  
Criminology/ 犯罪心理学研究, 49(特別号), 70-71 (2011).
  - 10) ひき逃げ事件の状況的促進要因  
藤田悟郎・岡村和子・小菅律  
日本心理学会第 75 回大会発表論文集, 475 (2011).
- (3) 招待講演 (Invited oral presentation at the academic meeting and conference)
- 1) Crime, punishment and remedy: Japanese experiences of driving while impaired;  
policy and practice.  
Okamura, K.  
The 20th International Council on Alcohol, Drugs and Traffic Safety. 25-28  
August, Brisbane. Keynote lecture at plenary session.